

四日市の第九

Symphony No.9 Yokkaichi

指揮 井村誠貴

管弦楽 中部フィルハーモニー交響楽団

2026年 11月15日 日
16:30 開演 [15:30 開場]

四日市市文化会館 第1ホール

カルメン前奏曲

作曲：G.ビゼー

カルメン行進曲

作曲：G.ビゼー

行け、我が想いよ、黄金の翼に乗って

作曲：G.ヴェルディ

民衆の歌

作曲：C.M. シューンベルク

大地讃頌

作曲：佐藤 眞

ソプラノ 伊藤 晴 メソプラノ 相可佐代子

テノール 中井亮一 バリトン 森 寿美

合唱 2026 公募市民合唱団「フロイデ」

賛助出演 女声アンサンブル Marimo 座

交響曲第九番ニ短調 作品 125 [合唱付] 作曲：L.V. ベートーヴェン

指定席 A 3,500 円 (当日 3,800 円)

指定席 B 3,000 円 (当日 3,300 円)

一般自由席 2,500 円 (当日 2,800 円)

高校生以下自由席 1,500 円 (当日 1,800 円)

* 未就学児入場可 (4歳以上は有料にて客席をご利用いただけます。) * 3歳以下は親子室にて鑑賞いただけます。(室料は無料)

チケット取り扱い：9月1日(火)～9月30日(水)

四日市市文化会館仮事務所

[四日市市海山道町1丁目 1532-1 四日市市三浜文化会館地域活動室]
[火曜日休館 (ただし祝日の場合は開館し翌平日休館)]

10月1日(木)～11月14日(土)

四日市市文化会館

※何れも9時～19時

[四日市市安島2丁目 5-3
[月曜日休館 (ただし祝日の場合は開館し翌平日休館)]]

メールでのお申し込みも受け付けます。→ e-mail: yokkaichinodai9@gmail.com (四日市の第九実行委員会事務局)

お問い合わせ：四日市の第九実行委員会事務局 TEL 070-4317-9643 (細谷)

【主催】四日市市・一般社団法人四日市市文化協会

【助成】公益財団法人岡田文化財団

【後援】公益財団法人四日市市文化まちづくり財団 (株)シー・ティー・ワイ 中日新聞社

【主管】四日市の第九実行委員会

【寄付】公益財団法人ささえあいのまち創造基金



ささえあいのまち

指揮 井村誠貴

1994年大阪音楽大学コントラバス科卒業。在学中よりオペラ指揮者として研鑽を積み、菊池彦典氏をはじめ、日本を代表する指揮者のもとでアシスタント・コンダクターとして携わり高い評価を得ている。オペラレパートリーも50演目を越え、主要作品の他にオペレッタや邦人作品の初演も数多く、喜歌劇楽友協会におけるJ.シュトラウスII「ウィーン気質」の邦人初演は特に注目を集めた。2001年イタリアに留学。現地ではAs.Li.Coの北イタリア・オペラ公演ツアーに同行した。2013年には年間オペラ公演回数が日本人第1位になるなどオペラ指揮者としての地位を確立。管弦楽では、京都フィルハーモニー室内合奏団、大阪交響楽団、オペラハウス管弦楽団、京都市交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団等を客演。また岐阜県交響楽団、大阪市民管弦楽団等との定期演奏会を客演指揮するなど、アマチュアオーケストラの分野においても貴重な存在となっている。さらにOsaka Shion Wind Orchestra (旧大阪市音楽団)、シエナ・ウインド・オーケストラ、ナゴヤディレクターズバンド等、吹奏楽団の分野でも活躍。ミュージカルでは、1999年「ラ・カージュ・オ・フォール」(市村正親)をはじめ、「マイ・フェアレディ」(大地真央)、「レ・ミゼラブル」(山口祐一郎)、「ベテニ師と詐欺師」(鹿賀丈史)、「The Musical AIDA」(安蘭けい)、「キャバレー」(藤原紀香)のロングラン公演を成功させライブCD及びDVDを発売。また、岩崎宏美や、南こうせつ、夏川りみ、佐々木秀実、といった実力派シンガーとの共演も多くコンサートを成功に導いている。「浪速のモーツァルト：キダ・タロー」の編曲も手掛け、キダ・タローとのコンサートも話題となった。2011年には「岐阜3000人の第九」を成功に導く。2014年には、「ベートーヴェン振るマラソン！」と題して、一日でベートーヴェンの全交響曲を一人で指揮。そのギネス級の活動は大きな話題となった。2011年東日本大震災以降、毎年チャリティーコンサートを開催。これまでに5136万円を超える義援金を届けた。指揮活動の他、オペラ演出、企画構成、さらには作曲、編曲、作詞も手掛け、マルチな才能を発揮。年間100公演近くに及ぶ実績と、繊細且つダイナミックな指揮は、多くのファンを魅了し続けている。指揮を湯浅勇治、松尾葉子、広上淳一、辻井清幸の各氏に師事。現在、春日井第九音楽監督、苫小牧DSB音楽監督、平野マスターズ吹奏楽団音楽監督、喜歌劇楽友協会理事長。



管弦楽 中部フィルハーモニー交響楽団



2000年小牧市交響楽団として設立。2007年中部フィルハーモニー交響楽団に改称。設立当初より故秋山和慶氏(2025年1月逝去)の指導の下、愛知県小牧市を拠点に「地域に根差したトップクラスのオーケストラ」をスローガンに、主に中部圏で精力的に演奏活動を行っている。定期演奏会では古典から近代まで幅広いレパートリーに加え、新作の初演を行うなど挑戦的でバラエティに富んだ企画に取り組み、アンサンブル技術や情熱的な演奏で高い評価を得ている。また、演奏はナクソス・ミュージック・ライブラリーや各音楽配信サービスにて聴くことができる。2009年、愛知県芸術文化選奨新人賞を受賞。2024年、日本オーケストラ連盟の正会員に昇格。2026年度より藤岡幸夫を芸術顧問に迎え新たな四半世紀の成長に臨む。また飯森範親が首席客演指揮者を務める。

ソプラノ 伊藤 晴



武蔵野音楽大学大学院修了。ミラノ、バリで研鑽を積み、バリ地方音楽院修了。新国立劇場に『夢遊病の女』リーザ、『カルメン』ミカエラ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ役、高校生のための鑑賞教室『蝶々夫人』蝶々さん等で出演を重ねる。藤原歌劇団では『椿姫』『愛の妙薬』『ラ・ボエーム』『蝶々夫人』等で多くのタイトルロールを演じ、東京フィル・チョン・ミンフン指揮『カルメン』等、オペラのレパートリーは30以上にのぼる。コンサートでは、ロームシアター竣工式にて小澤征爾指揮「第九」ソリストの他、モーツァルト「レクイエム」、ラヴェル「シェエラザード」等のソロを務める。11月日生劇場で『夕鶴』つう役、2027年1月びわ湖ホール『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ役で出演予定。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。名古屋音楽大学客員准教授。

メゾソプラノ 相可佐代子



名古屋音楽大学声楽科卒業、同大学院修了。2001年バリオ市立シヤトレ劇場研修生として渡仏。同劇場において歌曲リサイタル他、パリ・アテネ劇場や音楽祭にも出演。劇場研修後、エコールノルマル音楽院よりルーセル奨学金、バステギ奨学金を得て研鑽。帰国後も『カルメン』(タイトルロール)など多数のオペラに出演。ベートーヴェン『交響曲第九番』マーラー『交響曲第三番』『大地の歌』等のソリストも数多く務める。名古屋音楽大学准教授、京都市立芸術大学、愛知県立芸術大学各講師として後進の指導にもあたる。NHK-FM『名曲リサイタル』出演。津市文化奨励賞。ソロリサイタルにおいて、名古屋音楽ベンクラブ賞、名古屋市民芸術祭受賞。昨年1stアルバム「Parler⇄Rave」(レコード芸術誌推薦盤)をリリース。CBCクラブ会員。

テノール 中井亮一



名古屋芸術大学首席卒業、同大学院修了。08年スカラ座音楽院オペラ研修所修了。スカラ座(合唱)、フェニーチェ歌劇場、Rossini Opera Festivalなどイタリア各地で活躍。帰国後は藤原歌劇団の主役級テノールとして、新国立劇場『愛の妙薬』ネモリーノ役や日生劇場『セビリアの理髪師』をはじめ40作品以上のオペラに出演。昨年5月にはニューヨークで邦人オペラ「白狐」の保名役を好演、また本年7月には新国立劇場主催“オペラ鑑賞教室”で「愛の妙薬」を再演。その他東京芸術劇場、愛知芸文、びわ湖ホール、兵庫芸文など全国主要劇場で出演を重ねる一方、「メサイア」「第九」などの独唱、リサイタル、CDリリース、合唱指導など幅広く活躍中。山口県芸術文化振興奨励賞受賞、同県平生町観光大使。昭和音楽大学及び大学院(オペラ)、桜美林大学各非常勤講師。

バリトン 森 寿美



大阪教育大学卒業。沖縄県立芸術大学大学院修了。ミュンヘン音楽大学大学院修了。第5回長久手国際声楽オペラコンクール第1位、第43回ドヴォルジャーク国際声楽コンクールオペラ部門 第2位(チェコ)、第79・85回日本音楽コンクール 声楽部門(歌曲)入選など国内外のコンクールにおいて上位入賞する。これまでにヘルムート・リリング、ウルフ・シルマー、秋山和慶氏のもとでソリストとして出演し、ミュンヘン放送響、カルロヴィヴァリ交響楽団(チェコ)、名フィル、中部フィル、大阪交響楽団等との共演がある。プリンツレグンテン劇場(ミュンヘン)、NHK-FM『リサイタル・ノヴァ』に出演するなどオペラ、宗教曲、ドイツリートなど幅広い活動を行っている。現在、愛知県立芸術大学准教授、名古屋芸術大学非常勤講師。

合唱団 2026公募市民合唱団「フロイデ」(音楽監督：馬場浩子)

合唱団「フロイデ」は、毎年公募により編成されている市民合唱団。2004年に第1回目を開催、今年で23年目になります。コロナ禍では中止を余儀なくされる年もありましたが、フロイデの音楽に対する情熱が継続の原動力となり、今に至ります。年末の風物詩ともいえる「四日市の第九」、今年は事情により11月に開催。4月から予備講座をスタートして7月末から本講座に入り、本番まで計20回で仕上げます。「四日市の第九」の大きな特色は、サブステージとして、様々なジャンルの名曲をオーケストラと一緒に披露することです。今年はオペラ、ミュージカルから珠玉の作品をお届けします。合唱指導は神田豊壽、馬場浩子が担当しています。



賛助出演 女声アンサンブルMarimo座

2010年結成。東海地方を中心に活躍。均整の取れた美しいハーモニーには定評がある。宗教曲から邦人作品まで幅広いレパートリーをもち、2016年にウィーン国立歌劇場、聖シュテファン大聖堂、2019年にはイタリア、サン・ピエトロ大聖堂等での海外演奏に出演、いずれも大成功を収め、地元音楽関係者からも高い評価を受ける。湯山玲子氏プロデュース「トンネルのクラシック」in 愛岐トンネルに出演。2026年2月には15周年記念演奏会(電気文化会館コンサートホール)にて、新作オペラ「おもかげのむこうに」(伴 剛一作曲)を初演、好評を得る。よっかいちアーティストバンク・グループアーティスト。主宰/馬場浩子&メンバー 18名。専属ピアニスト/秀平雄二。

